

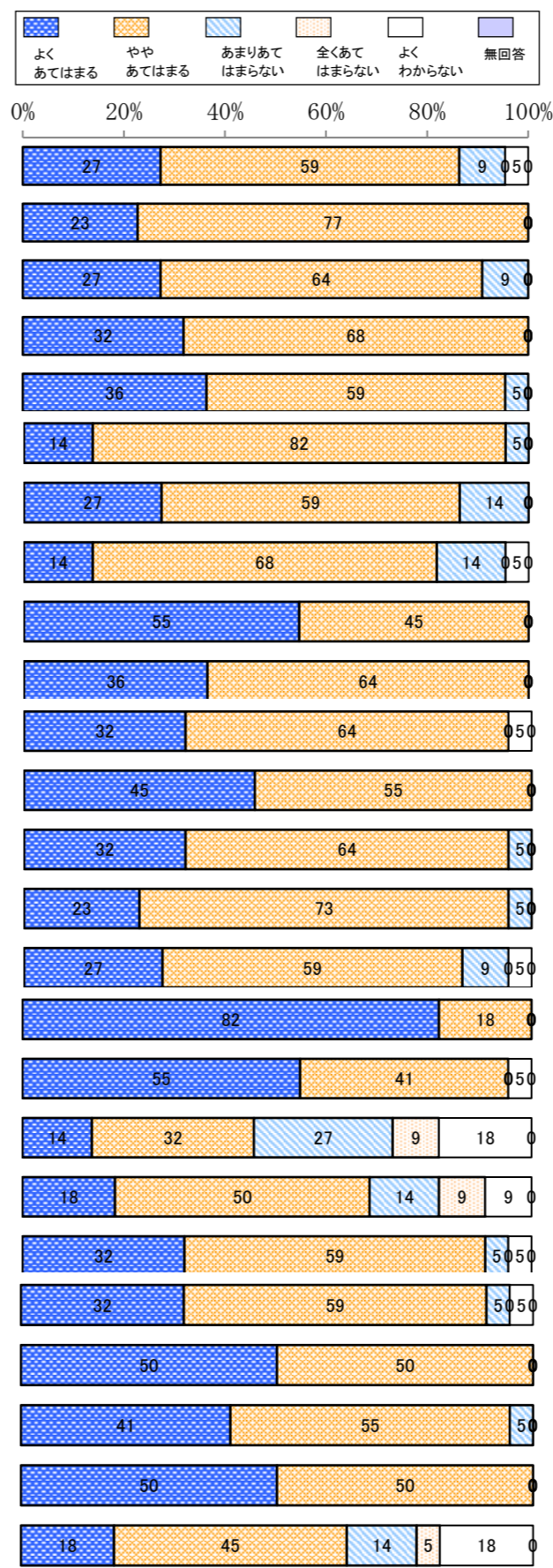
令和3年度 『学校評価アンケートの結果』 と 『自己評価』

荒川区立第三中学校

様式 4

アンケートの結果			上段：生徒 下段：保護者等 グラフ：教職員					
			A	B	C	D	よく分からない	無答
学校全体の様子	1	教育目標・方針	19	51	19	2	8	0
	2	児童・生徒の様子	61	32	4	0	2	0
	3	基本的生活習慣	44	51	2	0	2	0
	4	児童・生徒理解	25	49	15	2	10	0
	5	健康・安全・安心	43	47	6	0	3	0
学力向上の取組	6	分かる授業	23	61	12	1	3	0
	7	個に応じた指導	38	49	9	0	4	0
	8	学習習慣	28	41	20	7	3	0
	9	情報教育	66	31	2	0	1	0
	10	学校図書館の活用	22	50	24	2	2	0
社会性・人間性の育成	11	人権教育	53	39	2	0	4	0
	12	道徳教育	60	35	2	0	2	0
	13	教育相談	19	37	24	10	10	0
	14	人間関係づくり	51	34	9	2	4	0
	15	自治的な活動	41	43	7	1	7	0
保護者・地域との連携	16	情報発信	33	33	6	1	27	0
	17	相談への対応	37	37	4	2	21	0
	18	学校への参加	21	27	18	5	29	0
	19	地域との連携	10	20	36	22	11	0
	20	意見の反映	24	41	12	2	22	0
各学校の特色ある教育	21	キャリア教育	22	45	10	2	21	0
	22	学校図書館学習	32	48	13	2	5	0
	23	I C T教育の推進	57	31	4	0	8	0
	24	学力向上	40	40	6	2	12	0
	25	ボランティア活動	17	40	15	4	25	0

無効票を除く(%)



無効票を除く(%)

学校の自己評価 (考察)

学校便りやホームページ更新の機会を捉えて情報発信を行い、目標や方針を保護者に理解していただき肯定的回答は5ポイント増加した。

今年度も生徒、保護者ともに90%以上が肯定的な回答をし、保護者・生徒とも学校生活への満足度は依然高い。

生徒4.7ポイント、保護者2.2ポイント増加し、9割以上が肯定的な回答をしており、継続して規範意識を向上させる。

励まし理解されていると評価した生徒は8.2、保護者は6.7ポイント増加した。今後も心のふれあいを大切にし生徒理解を図る。

三者とも同じとらえ方をしているが、生徒の肯定的意見は4.2ポイント増加した。今後も安全指導、食育、健康教育に取り組み充実させる。

肯定的回答は生徒8.7、保護者は8.2ポイントと大きく増加した。何を理解し、何ができるかについて自己分析できる授業を継続する。

肯定的回答は生徒8.5ポイント、保護者4.1ポイント増加した。今後も指導方法の工夫・改善に取り組んでいく。

生徒の肯定的回答の増加に対し、保護者は低下した。「てらこや」等の補充教室の充実、及び家庭でのeライブラリーの積極的活用を促す。

三者ともに肯定的回答は3～9ポイント増加した。今後もICTの効果的な活用に向け研修を重ね日々の授業改善に努める。

今年度、学校図書館を活用した授業数は大幅に増加したが、教科と連携した読書指導、学校図書館活用授業を推進する。

肯定的回答が生徒3.2、保護者9.4ポイント増加した。コロナ禍において、人権について機会あるごとに考えさせ、人権感覚を育てる。

生徒の肯定的回答は7.7ポイント増加し、3番目に高い項目である。今後も考える道徳、議論する道徳に向け授業改善に取り組む。

肯定的意見は他の項目に比べ低い。SCと連携を強化し、気軽に相談できる環境を構築、教育相談の充実を図る。

保護者の肯定的評価が「学力向上」の次に高い項目である。今後も運動会、校内ハローワーク等、工夫・改善を加え教育活動を展開する。

本校の大きな特色である活発な自治活動を、委員会活動や学校行事を通して次の学年に引き継がせる。生徒の肯定的回答3.6ポイント増加。

よくわからないと回答した生徒は多いが、9割の保護者は肯定的である。便り、ホームページによる紹介等間断なく継続した結果である。

生徒、保護者ともに4ポイント増加したが、教職員と比較し評価は低い。生徒が悩み等を相談しやすい態勢をつくり丁寧な対応をする。

今年度も保護者の参観が不可能な状態が続き、保護者の肯定的回答も63%にとどまる。情報発信に努め、学校の様子をお伝えしていく。

地域行事が中止となり、生徒はボランティア活動に取り組む機会がなかった。今後、行政による指示を踏まえ、連携を図っていく。

保護者の肯定的意見は、教員の91%に対して63%にとどまる。常日頃から繋がりを大切にし、相談しやすい環境をつくる。

社会を構成する一員としての自覚をもたせるため、学級・学年・学校組織の中で社会的自立を促し社会人としての資質・能力を育成する。

積極的に学校図書館を活用し、探究的学習活動をする際は、自分の考えをまとめ、アウトプットする学習を取り入れる。

Google Classroomを意図的に活用し、理解を促すとともに、オンラインを活用した授業とeラーニングによる学習を推進する。

三中てらこや、各種検定受験に向けた取り組みを、保護者は高く評価(2番目)しており、今後も主体的に学ぶ意欲、態度を育成する。

小学校等の運動会におけるボランティア活動中止、汐入地区の行事の中止により、活動機会がほとんどなく、三者ともに評価は低い。